

優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点強化事業 事後評価結果

研究開発課題名	世界に挑戦する革新的医療機器開発スタートアップを生み出すプラットフォーム
研究開発代表機関	国立大学法人京都大学
研究開発代表者	妹尾 浩

【計画実施概要】

■当初の計画

京都大学医療機器開発支援拠点 (MeBKY: Medical Device Base Kyoto) を核に、高度管理医療機器・SaMD の開発支援を強化し、規制対応・知財を含む伴走体制、臨床評価の場、海外ネットワークを整備して、国際競争力あるスタートアップ創出のエコシステム構築を目指す(図1)。

■成果

相談会やマッチング支援を強化した結果、高度管理医療機器・SaMD のシーズ創出が増加した。橋渡し事業へのシームレスな伴走支援により非臨床ステージの開発が着実に進み、国際展開を見据えたスタートアップの立上げも、学内外の支援機関と連携しながら早期段階から育成が進んだ。さらに、臨床評価を必要とするスタートアップに対しては、臨床研究中核病院と連携し、相談対応を通じてニーズ創出から臨床支援まで一貫した体制を形成した。

■課題

豪州での海外展開支援プログラムは初回であったため、候補者は存在したが周知体制に改善の余地があった。

■今後の方針

初期相談からの伴走支援を一層強化し、国際展開力が求められる研究者を重点的に支援することで、国際競争力を有するスタートアップを継続的に生み出すエコシステムを確立する。

世界に挑戦する革新的医療機器開発スタートアップを生み出すプラットフォーム

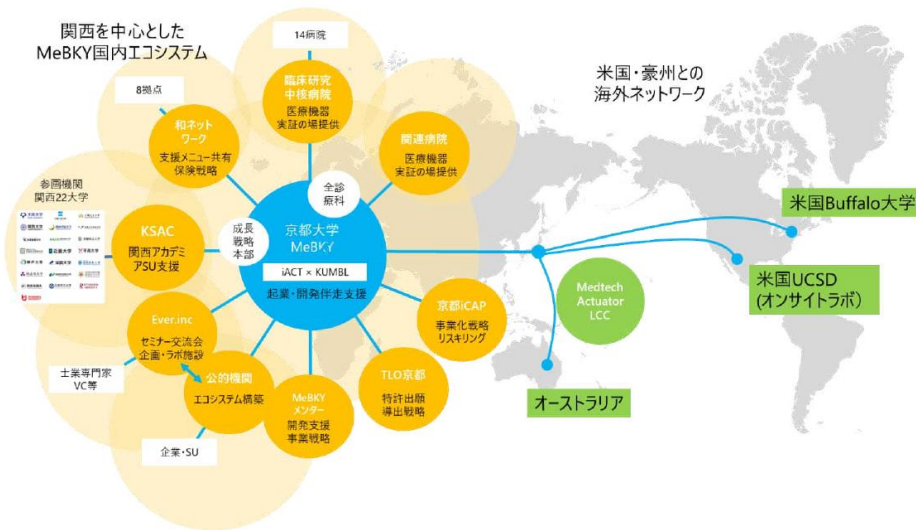


図1 当拠点が目指すところ

【評価コメント】

臨床ニーズ発見・検証、人材育成、企業連携、実装・事業化をトータルに見据えて計画を推進している点、また、企業との包括連携や企業とのマッチングが推進されている点が評価された。

以上